

軒昂会

軒昂会会報 第28号
 発行者 日原 雄
 編集者 田村千秋
 発行日 平成20年2月
 URL : http://ct.photo-web.cc/kkk/
 会報 : http://ct.photo-web.cc/kkk/pdf

会報は年2回予定しています。
 皆様の原稿お待ちしております。
 頂いた方にはお礼申し上げます。
 原稿の送り先
 Eメール : ctamur@ybb.ne.jp

平成十九年度総会のご案内

総会兼宴会を左記の通りご案内申し上げます。
 多くの皆様の参加、幹事一同お待ちしております。
日時 四月二十三日(水)～二十四日(木) チェックイン十五時
場所 箱根湯元 箱根湯本ホテル
宴会費 参加会費一万二千円
 当日、年会費二千円と合わせて一万四千円集金させていただきます。
 出欠用返信はがき同封してありますので三月末日までにご返送ください。
 箱根湯本ホテルのパンフレット同封します。
 露天風呂、大浴場につきり一年ぶりの再会を祝いましょう。カラオケも用意しました。また有志の皆様からスピーチ頂ければと思っております。



訃報
 軒昂会会員 菊池盛さんが平成十九年九月十三日逝去されました。享年七十四歳
 慎んでご冥福お祈りいたします。

「風雪の青春」 西牧準夫 最終回

七 山間の小さな町にも 戦火が舞い散る

昭和二十年七月から八月、戦況は益々厳しくなり、B29及び艦載機グラマン機(航空母艦太平洋沿岸青森より南下)の爆撃及び機銃掃射の連日が続き、家族会での内庭に防空壕を作る穴掘りをはじめ、木材は配給制のため、木材待ちで八月十五日の配給日には朝早く台八車に山積みして、一、五の道を父親と二人で運び、その正午には重大放送があり、我々はラジオの前に正座して聞いていましたが雑音もあり、その内容はなかなか判断できるものではありませんでした。父母達の涙声を聞いて初めて、この戦争に負けたことがわかりました。

八 盆栽と長石白黒雲母を 含むウラン

食料増産のため、父母たちは家より四分の一を開拓したその山は石・珪長石・石英等が多く含まれた鉄分があり、緑柱石は特殊レンズの原料となる。尚、当地には全国でも珍しい鉱石が発見されたが量的に非常に少ないため工業化はされず、ただ、全国の資料館等に出品された経緯があります。
 昔の話ではありませんが、持ち帰った石土産(珪長石)で小盆栽を作り、皆さんに公開できたことは私にとって、嬉しいことであります。

軒昂会だより

現在の会員数は五十五名です。
 お願い
 平成十九年度軒昂会会費二千円会計までお振込みをお願いします。
 振込み先
 株式会社みずほ銀行厚木北口支店
 口座番号 二二三六九〇〇
 軒昂会代表者 コイズミイワネ

九 知られざる核開発裏面史

日本の核開発は今を去る六十五年前、昭和十七年に陸軍・海軍・理化学研究所の専門物理学者によって進められていた。
 生物の細胞が分裂する際にまず細胞核の分裂が経ることは知られていた。それを原子核にも応用できるとして、重い原子核が他の粒子との衝突によって、二つの原子核に分裂した際に、エネルギーが放出されるのでは？と東京帝国大学二号研究所の卒論昭和十七年として発表されていました。(原子核分裂)

陸軍は東大、理化学研究所、仁科芳雄(博士)所長の下、(仁から二号研究所と命名)で開発研究を委嘱。
 海軍は海軍技術研究所として、京大の基礎研究室荒勝研究室(F号研究)に荒勝博士以下湯川秀樹氏(後のノーベル賞受賞者)等の若手研究員の参画を得て、それぞれ原爆開発が進められたが、当時の日本の開発規模はアメリカに比較して、極端に小さいものであった。

日米の原爆開発の規模 (当時)

国	科学者	国家予算	開発人員
日本	十八名	一千万円	百五十人
米国	二百名	二百億ドル	三万人

日本ではウラン鉱石の採掘が量的に事実上難しく、同盟国のドイツから酸化ウランを四回にわたり各百四十キログラムをUボートで輸送したが、すべて公海上でアメリカに撃沈され、その後の研究も滞ることになってしまった。

戦後、アメリカのマンハッタン計画(原子爆弾)に動員された人員・設備・資本等は当時の日本とは比べようもなく、膨大であり、国力からして日本では到底実現不可能なものであったことを戦後に初めて知ることになった。

以下裏面

「世界遺産の宝庫」トルコ見聞録

桜田忠男

平成十八年十二月にベルリンのペルガモン美術館で「ゼウスの祭壇」を観てその大きさに圧倒されたからトルコの遺跡を巡る旅に出ることを計画していました。トルコはまさに世界遺産の宝庫で、トロイの木馬で有名な「トロイ遺跡」、都市遺跡の「エフェソス」とヒエラポリス遺跡、首都イスタンブールの「トプカプ宮殿」「ブルーモスク」「アヤソフィア大聖堂」「地下宮殿」などの文化遺産それに Cappadocia、パムッカレ石灰棚などの自然遺産があり平成十九年四月それらを探訪してきました。

「エフェソス都市遺跡」

同じローマ時代のポンペイの遺跡は、住宅、商店、等の建物がよく残っていて、庶民の生活が手に取るように判るといわれますが、町が小さかったこともあって、大きな公的建物が少ないので都市遺跡としてはここエフェソス(エフェス)は州の都だけあって、立派な建物には圧倒されます。
 現在は海岸線が後退して遺跡からは海を望むことはできないが昔はエフェソスの港につくと、この遺跡を代表する野外大劇場が眼の前に見えたという、三万人が収容できる大規模の劇場です。



この劇場の前にはメイנסトリートが港まで続き、そこをクレオパトラとアントニオが手を取って歩いたと伝えられています。

石畳の通りを歩いていくとやがてセルスス図書館の前に出ます。そり立つ門の建造物を目の当たりにすると、よくぞ二千年前の遺跡がここまで残ったものだと感動します。当時はエジプトのアレキサンドリアとペルガモンに続く世界第三の図書館だったと言われています。図書館の柱は大理石で、正面の壁には知恵・運命・学問・美德を象徴する四体の女性像がおかれています。この建物が図書館のどの部分なのか不明ですが、とにかく古代の人が高い技術と知識を誇っていたことに驚きます。

セルスス図書館はエフェスのシンボリックな建物ですが、建物の一部がウィーンのエフェソス美術館に移築されています。

おわりに

思いで文集「風雪の青春」発行

平成五年、建学の精神「行学一如」を掲げて、創立百周年を迎えた我々の母校、旧制・石川中学第四十一回卒業生と石川高校第一回卒業生一同、遺曆を迎えて、戦中戦後の激動の時代を生きた抜いた我々にとって生涯忘れ難き学生生活の記録を後世に残したいと云う主旨で文集発行を企画し、多くの学窓関係者、同窓生の寄稿、資料の提供を得て、その名も「風雪の青春」のタイトルに相応しい文集が発行されました。

この「風雪の青春」冊子の発行によって、戦中の激動の中での貴重な記録、特に原子核開発、原爆研究の記録、証言が、二十一世紀の核開発、核拡散防止の大命題を抱える現在の世情に一石を投じる証言としてマスコミ(新聞、テレビ、ラジオ)に反響を呼び全国的(全世界的)に問題を投げかけることになりました。

私が体験した昭和の青春の歴史の貴重な実録と証言を披露して、二度と戦争と核の脅威が再来しない事を願しながら、結びます。

「風雪の青春」に関してテレビ等で紹介されています。

平成七年テレビ朝日



久米宏キャスター
ニユース番組
「風雪の青春」原爆と学徒動員

平成十七年 NHK福島ラジオ放送

平成十六年 テレビ朝日

「ザ・スクープスペシャル」鳥越キャスター
「原爆開発研究」

天田会会報に掲載されたのは上の段までで、ここからは会報を読まれた方から送られてきた内容です。西牧こんな偶然がありました。

平成十八年九月、東京日暮里のとある御婦人が来校(石川町小学校)して、私は集団学徒疎開でお世話になった一人です。西牧さんの書かれた天田会会報の「風雪の青春」を読ませていただきました。この集団学徒疎開の方々が当時暖かく迎え入れて頂いたお礼にゆかりの童謡「夕焼けこ焼け」を刻んだ記念碑を寄贈しました。その除幕式が昨年十二月十四日行われました。當時疎開した約三十人が母校を再訪し、在校生と交流しました。



「夕焼けこ焼け」の歌碑に見入る出席者
石川町小学校
校長 西牧敏幸 (甥)

新聞関連記事

日本の原爆研究暗い過去知って

第二次世界大戦末期へ国内で秘密裏に進められた原爆研究の一環で、福島県石川町で行われたウラン鉱採掘の実態を伝える史料の収集を、同町の町史編纂専門委員、橋本悦雄さん(五十八才)約十五年にわたり続けている。

日本の原爆研究の過去をゆがめることなく後世に伝えるのが目的。整理済みの写真などは、町立歴史民俗資料館で順次、展示している。

国内有数の鉱物産地の同町では、陸軍から原爆研究を依頼された理化学研究所(理研)が一九四五年四月からウラン鉱を採掘。研究は頓挫したが、採掘は学徒動員された旧制私立石川中(現・学法石川高)「石川町」の生徒らで、終戦の日まで続いた。

調査では、理研の元助手や学徒動員の生徒ら約三十人から聞き取り。大戦末期に町内に建設され、ウランの

分離のため転用された工場の関連写真を発見。終戦直前に米軍幹部が日本の原爆開発の状況を調べるよう告命した事を示す文書も、国立国会図書館にあるGHQ(連合国軍総司令部)の資料から探し出した。

ただ、時の経過が壁になり陸軍担当者にはほとんどが死去。戦後、GHQが町で原爆研究の資料を接収していた時期も証言がなかなか一致しない。橋本さんは「日本は被爆国だが、もし原爆が完成していたら先に使ったかもしれない。史実を正確に伝えたい」と強調し調査を継続する構えだ。

編集後記

西牧会員の「風雪の青春」を二回にわたり掲載しました。西牧さんから、天田会会報に載せた「風雪の青春」を読まれた方からこんな連絡を頂きましたと頂いたのが、後半に載せた内容です。全く奇遇なお話ではありませんか。

また、毎回原稿をお願いいたします。桜田会員からは、興味ある世界遺産めぐりの記事を頂き感謝しています。紙面の関係で今回残りの分を掲載します。

軒昂会会報のバックナンバーは次のURLをご覧ください。アクトバットPDFですので配布した会報と同じスタイルで印刷できます。
<http://ct.photo-web.cc/kkk/pdf/>

- 第12号 第16号 第20号 第24号
- 第13号 第17号 第21号 第25号
- 第14号 第18号 第22号 第26号
- 第15号 第19号 第23号 第27号

田村



「世界蘭展」より (東京ドーム 07/12/21)

皆様からの原稿お待ちしております。